

今冬の北陸エリア電力需給実績について

2019年3月27日
北陸電力株式会社

当社は、今冬の北陸エリアにおける電力需給実績について取りまとめましたので、お知らせいたします。

今冬は、志賀原子力発電所の運転停止が継続する中、七尾大田火力発電所2号機の長期停止により、非常に厳しい需給状況が想定されたため、計画的な電力調達等、供給力の確保に努めてまいりました。

こうした供給力の上積みに加え、天候等の影響により電力需要が想定を下回ったこともあり、安定した電気をお届けすることができました。

今後も、当社としては電気設備の保守点検を確実に実施する等、引き続き電力の安定供給に努めてまいります。

お客さまにおかれましては、電気の効率的なご使用にご協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

以 上

別紙：今冬の北陸エリア電力需給実績の概要

今冬の北陸エリア電力需給実績の概要

2019年3月27日
北陸電力株式会社



こたえていく。かなえていく。北陸電力

1. 今冬の需給バランス

1

- 今冬(12~2月)の北陸エリアの最大電力は、2月1日(金)9時~10時の503万kW。
- 供給面では、他エリアからの受電や再エネ発電の増加等により、同日の供給力は601万kWと、当初見通しより36万kW上回り、19.3%の予備率を確保。

	最大電力発生日 2/1(金)実績	2月見通し	(参考) 予備率最小日 1/8(火)実績
供給力	601	565	478
最大電力	503	543	439
予備力	97	22	39
予備率	19.3%	4.0%	8.9%

[万kW]

※ 実績は一部推計値含む

※ 「2月見通し」は2018年度供給計画値を基に厳寒による需要増を考慮(2018年11月8日公表値)

※ 四捨五入の関係で合計が合わないことがある



こたえていく。かなえていく。北陸電力

2. 最大電力および気温の推移（12月～2月）

2

- 今冬は、期間を通して暖冬・少雪となり、気温は平年に比べ高かった。降雪量についても、平年に比べ少なかった。
- 電力需要については、今冬最大として2/1(金)に最大電力 503万kW を記録したものの、冬季最大を更新した昨冬に比べ37万kW程度下回った。

<最大電力(エリア送電端)と気温の推移(3都市平均)>



<気象状況(富山・金沢・福井の3都市平均)>

	日平均気温[°C]			降雪量[cm]		
	12月	1月	2月	12月	1月	2月
2018年度	6.7(+0.6)	3.8(+0.6)	5.2(+1.7)	23.0(▲22.3)	23.3(▲110.7)	13.3(▲89.7)
2017年度	4.9	2.3	2.2	49.0	160.3	166.3
平年	6.1	3.2	3.5	45.3	134.0	103.0

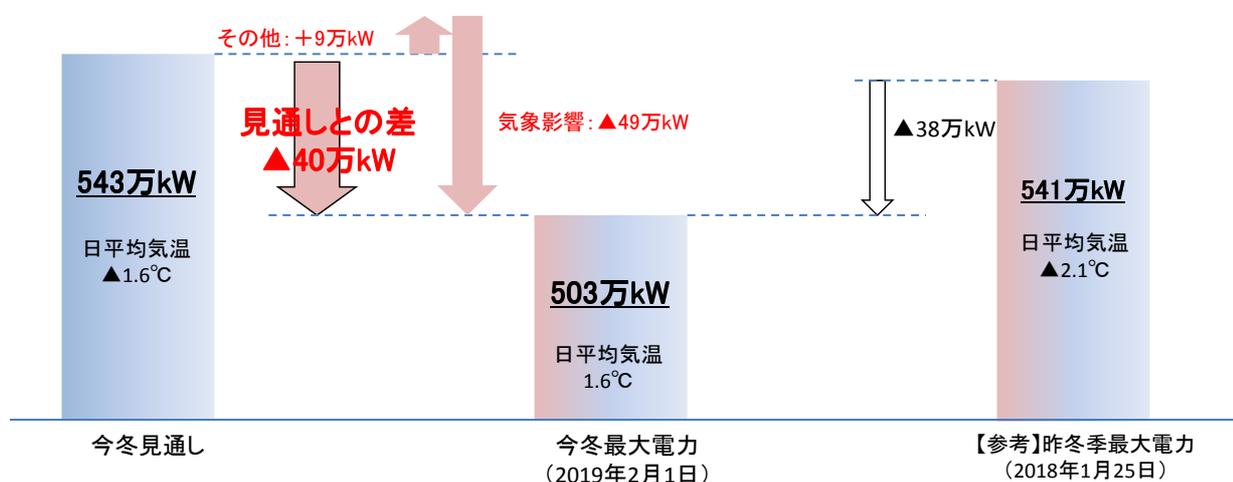
こたえていく。かなえていく。北陸電力

3. 今冬最大電力実績と見通しとの比較

3

- 今冬の見通しでは、2017年度並みの厳寒(日平均気温▲1.6°C)となった場合の最大電力を543万kWと想定。2月はそれを上回る気温となったことから最大電力実績は503万kWとなり、見通しを40万kW程度下回った。
- 差異の内訳は、気象影響分が▲49万kW程度、その他(景気影響等)が+9万kW程度と推定。

<今冬最大電力実績と見通しとの比較>



以上

こたえていく。かなえていく。北陸電力